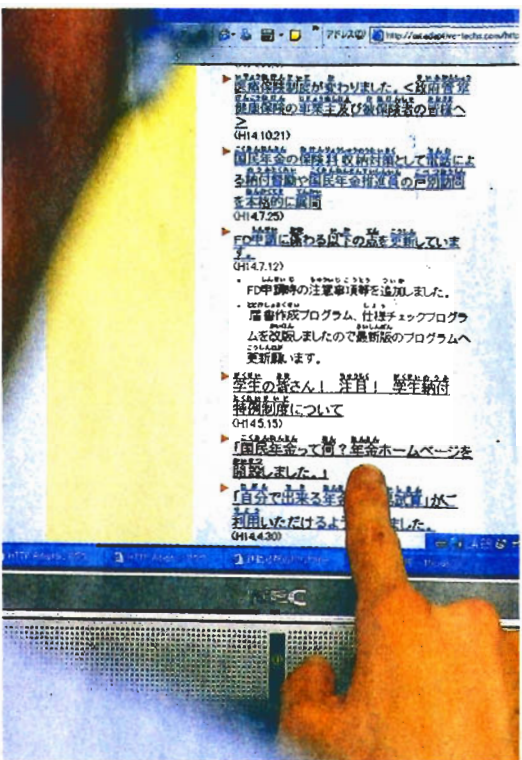


ホームページ画面上の漢字にルビを振って表示される



で利用せざるを得ない。鳥原さんは「パソコンの側が障害者の個別の状況を察知し、文字も音声、動画、静止画などを組み合わせて、必要な情報をその人の欲しがる形で自動的に提供する」ようなシステムを理想として思い描く。

「漢字が苦手」という人に合わせてルビを振り、読みやすくするサービスはこの構想の具体化の第一歩だ。今後は平仮名のルビの代わりに、英語や中国語など外国語の単語を表示したり、その単語に関連した画像や音声を付けたりするなど、利用できる人の範囲を拡大していくという。外出先で見掛けた看板などの文字もカメラ付き携帯電話で撮影してメールで送れば、ルビを振って読み方を教えるようなサービスの実現も目指す。

るサービスを、情報技術が、同じ機能の市販パソコン（ＩＴ）を活用した障害者支援に取り組み団体「アダプティブテクノロジー」が無料で始めた。

同団体代表で、システムを開発した鳥原信一さんは、情報提示の仕方を交換させるこの技術を発展して、「その人の障害の種類や程度、属性や好み、ＴＰＯ（時、場所、状況）に合わせて情報を提供できるようにしたい」と夢を語る。

利用者は一度ユーザー登録をすれば、後は「アダプティブテクノロジー」の運用するサーバーを経由してホームページを閲覧したり、メールを受け取ったりするだけ。使われているすべての漢字にルビが振って表示される

障害者支援団体が 携帯電話もOK 無料サービス

サイトの漢字にルビ振ります

学習障害で漢字の読めない人や外国人向けに、電子メールやサイト上の漢字に自動的にルビを振

るサービス。情報技術が、同じ機能の市販パソコン（ＩＴ）を活用した障害者支援に取り組み団体「アダプティブテクノロジー」が無料で始めた。同団体代表で、システムを開発した鳥原信一さんは、情報提示の仕方を交換させるこの技術を発展して、「その人の障害の種類や程度、属性や好み、ＴＰＯ（時、場所、状況）に合わせて情報を提供できるようにしたい」と夢を語る。利用者は一度ユーザー登録をすれば、後は「アダプティブテクノロジー」の運用するサーバーを経由してホームページを閲覧したり、メールを受け取ったりするだけ。使われているすべての漢字にルビが振って表示される

技術の仕様に合わせる形」と意気込んでいる。